

東北 VALUE SIGHT

秋 田



泰山堂は1996年に秋田県内第1号として開業した農家民宿である。代表の藤井けい子氏は、農村女性による起業の先駆者としての活動が評価され、2014年内閣府男女参画表彰で「女性のチャレンジ賞特別部門賞」を受賞した。

開業当初から変わらない、藤井代表の飾らない人柄が、多くのリピーターに愛される泰山堂の魅力につながっている。

農家民宿 泰山堂 代表

藤井 けい子 (ふじい・けいこ)

1996年 秋田県内第1号となる農家民宿「泰山堂」を開業
1998年 西木村グリーン・ツーリズム研究会発足
2001年 農産物直売所むらっこ物産館開業(初代会長)
2008年 農林漁家民宿おかあさん100選認定
2013年 秋田県男女参画社会作りチャレンジ賞受賞
2014年 内閣府男女参画表彰
女性のチャレンジ賞特別部門賞受賞

このほか、2012年から「NPO法人秋田花まるっグリーン・ツーリズム推進協議会」理事長を務める。

農家民宿 泰山堂

秋田県仙北市西木町小瀬野字落合56

TEL 0187-47-3103・FAX 0187-49-6022

<http://www.akita-gt.org/stay/minshuku/taizandou.html>

来てくださるお客様に感謝し、 等身大のおもてなしでともに楽しむ

開業のきっかけは中学生との出会い

私が泰山堂を開業しようと思いつくまで欠かさない出来事がある。地元の劇団「わらび座」の依頼を受けて、首都圏の中学校の修学旅行生を農業体験のために自宅に受け入れたことだ。子ども達を相手にする中で大変なこともあったが、それ以上にやりがいがあった。子ども達を迎え、送り出す時の感動。15年に渡る修学旅行生の受け入れの中で、こうした活動を何とか形にしたいという思いが自然に芽生えていった。

同時に、受け入れた子ども達が成長し、親御さんや友人とともにわが家を訪ねてきてくれるようになった。年を重ねるごとに訪ねてくれる人は増え、嬉しい思いの反面、自宅でもてなすことに難しさを感じるようになっていった。

この二つの思いが重なり、何か始めようと考えようになった。「何かできそうな気がする、でも何をどうしてよいか分からない」というもどかしい時期が3年ほど続いた後、ふとしたきっかけでヨーロッパに農家民宿というシステムがあることを知った。自分のやりたいことはこれだと確信した瞬間であった。

泰山堂開業へ

農家民宿をやろうと決めてからは、家族の反対もなく、大工をしていた夫の「一度は思い通りの家を建ててみたい。人を迎えるような仕事をしてみたい」という夢も加わり、話はとんとん拍子に進んだ。当時の心配事は建築費用だけであったが、少しでも早く返済できるように頑張ろうという気持ちで腹を決めた。

この頃、私の意図しないところでも、背中を押してくれている人達がいた。農家民宿をやろうと決めた頃、秋田県から話を頂いて農村漁村女性・生活活動支援協会の「グリーン・ツーリズム専門家養成講

座」を受講する機会を得たのだが、これは私の計画を知った角館農業改良普及所の方が、県に推してくれたからこそいただいた話であった。また、県の視察で長野県大鹿村の農家民宿を視察に行く機会があったが、これは農業簿記の研修で知り合った県立大の先生の後押しによるものであった。

開業前から会いに来てくれるお客さまがいて、家族の反対もなく、周囲に応援してくださる人がいた。この環境があったからこそ泰山堂を作ることができた。苦労もあったが、私は恵まれていた。

1996年、ついに建物が完成した。お客さまがつけてくれた「泰山堂」の名を掲げ、準備がすべて整ったのである。

感謝の気持ちでお客様に向き合う

もともとわが家に来てくれていたお客さまをお迎えする場として始めたため、泰山堂が完成してからも積極的に情報発信するようなことはしなかった。「農家民宿」が珍しい時代であったため、最初の年は県内外から宿泊・日帰りを問わず多くの行政視察が訪れ多忙な年となったが、その後はリピーターや口コミのお客さまで年間300人ほどの宿泊客をお迎えしている。

お客さまをお迎えする時には、「接客をする」とは考えていない。特別な体験メニューを準備しているわけでもなく、ただ、お客さまが来てくれることに感謝して、自分のできる範囲のことをしているだけである。お客さまが「トマトを摘みたい」と言えば摘ませてあげ、「田畑の仕事を手伝いたい」と言えば一緒に作業をする。「食事の配膳を手伝う」と言われれば、ありがとと素直に甘える。祭りや花火の時期には、お弁当を持ってお客さまと一緒に出掛けて

いく。

泰山堂へ来てくれたことへの感謝があるから、美味しい食事を食べさせてあげたい、きれいな部屋でくつろいでもらいたいという気持ちが自然に湧いてくる。この気持ちに従ってもてなしているだけで、何も特別なことはしていないのだが、多くのお客さまが満足し、二度、三度と足を運んでくれている。

泰山堂とともに歩む

泰山堂を開業してからさまざまな出来事があったが、これまでに二度ほど大変な時期があった。

一つは、2001年の農産物直売所「むらっこ物産館」の立ち上げにかかわり、それから3年間、会長と経理を務めた頃である。寝る間を削って物産館の経理事務をし、昼間は物産館で接客をし、家に帰れば泰山堂でお客さまを迎えるという生活であった。大変だったが、お客さまが私の疲れを察し、いたわってくれた。加えて家族のサポートもあり、何とか3年間の職責を果たすことができた。

もう一つは、姑が認知症を患った時のことである。姑を介護したいという思いがあったが、泰山堂との両立は難しく、しばらく泰山堂を休むことを考えていた。そんな時にお客さまが、私の表情から不穏を察して、親身になってアドバイスをしてくれた。その後姑の介護には介護サービスを利用し、泰山堂を続けるという選択をしたが、今思い返せば、姑も私もお互いに笑顔でいられる選択であったと思う。

私が悩んでいる時や疲れている時には、こうしていつも泰山堂のお客さまが肩の荷を軽くしてくれた。来年には20周年を迎えるが、これまでの時間を振り返ると、確かに苦労もあったが、泰山堂のおかげで喜びを積み上げてきたように感じている。泰山堂は、

私には欠かせないものとなった。

内閣表彰を受けて ~これから~

これまでの活動を評価いただき、2014年度内閣府男女参画表彰「女性のチャレンジ賞特別部門賞」を受賞することができた。驚きが先に立ったが、時間がたつにつれ、自分の周りにいる人達のおかげで受賞できたのだと、大きな感動を感じた。

しかしながら、受賞したことでの気負いはない。これからは自分のペースを大事にして、ゆったりと泰山堂をやっていきたく強く願う。「自分の身体を大事にしなければいけない」と思えることが泰山堂をやっている上での一番の儲けだ。お客さまの健康を願い、自分の健康を大事にし、少しでも長く泰山堂を続けていきたい。



泰山堂外観。
緑豊かな田園風景に溶け込み、風の音や虫の声を聞きながら、ゆったり過ごすことができる。
来年、20周年を迎える。